

市立釧路総合病院 消化器科 リウマチ科・内科

広大な医療圏をカバーする
道東の基幹病院として
地域完結型の高度救急医療を提供する

経験豊富な医師とコメディカルによるチーム医療が
安全で確実な治療を実践

市立釧路総合病院は創立明治5年、約130年という長い歴史を誇り、釧根医療圏の基幹病院として約35万人の地域住民に第三次救急医療を提供しています。また、平成18年4月には地域がん診療拠点病院にも指定されており、高度専門医療を中心とした地域完結型の幅広い医療サービスを展開しています。現在ではMRI、CT等の最新医療設備を備え、また縦動線の採用による院内動線の簡素化を実現など、院内環境の向上と多様化する医療ニーズへの対応を実践しています。

消化器科 リウマチ科・内科でも、増加傾向にある緊急内視鏡に対応するため、夜間にはオンコール制を敷いて内視鏡医2名と看護師のチーム体制で治療にあたっています。同科の総括診療部長である米澤和彦先生は、「当院では遠方から来院される患者さんも多く、万が一ご自宅に戻られてから何かあってもすぐに対応できないため、特に慎重な治療を心がけています。そのため、緊急であっても2名の医師のうち1名は必ず指導医がつくような体制を取っています」とお話されました。また、機器の取扱や内視鏡医の介助に経験豊富な看護師がチームに参画することで、特に緊急性の高い内視鏡止血などでは医師が治療だけに専念でき、安全で迅速な治療が行えるそうです。

安全な内視鏡検査と治療を提供するため
処置具のディスポーザブル化を推進

同院は第二種感染症指定医療機関に指定されており、院内にICT(インフェクションコントロールチーム)を設置しています。ICTは院長と米澤先生が中心となってマニュアルの作成や改訂を行い、定期的にミーティングを開催して外来・入院患者の感染管理に取り組んでいます。内視鏡室でも消化器内視鏡技師会が推奨するガイドラインを遵守したスコープの症例間消毒を励行しており、安全な検査が実施できるようスコープ本数や自動洗浄器台数なども必要数を確保しています。また、内視鏡室専任の看護師4名は全員内視鏡技師免許を取得しており、学会や研究会にも積極的に参加して感染対策や



〒085-0082 北海道釧路市春湖台1番12号
院長：川端 眞 病床数：651床
【年間内視鏡検査数】(平成17年度)
上部内視鏡検査数 3,524件 下部内視鏡検査数 1,391件
ERCP 158件
スタッフ：医師9名(うち指導医3名、専門医3名)
看護師8名(うち内視鏡技師)4名

治療内視鏡に関する最新の情報を取得し、実務に活かしています。

同科では感染対策の一環として内視鏡処置具のほとんどをディスポーザブル化していますが、生検鉗子については4年ほど前から全例でディスポーザブル製品を使用しています。その経緯を米澤先生に伺ったところ、「初めは高価な処置具を使い捨てにすることに対して、やはり抵抗を感じました。ディスポーザブル製品に切り替えた最大の理由は確実な安全性ですが、以前使用していたリユースの鉗子は繰り返し使うにつれて性能も劣化し、組織を大きく取るような場合には出血も懸念されました。そのため、毎回新品で性能が安定しているディスポーザブル製品が感染面と性能面の双方でメリットが高いと感じ、導入に踏み切りました。」とのご説明をいただきました。実際に心配していたコスト面でも、リユース製品にかかる再生の手間や性能劣化による製品寿命を考えると、リユース製品とそれほど差が無いことも実感されているそうです。

北海道は全国的にも医師不足が深刻な問題となっている地域ですが、米澤先生は「今後も近隣の住民だけでなくより広範な地域に対して安全かつ最新の医療サービスを提供するため、スタッフ一同日々研鑽を積んでいきたい」と、今後の抱負を語っていただきました。



消化器科 リウマチ科・内科のみなさん(前列中央が米澤先生)